



◆◆◆ 国際通貨研究所メールマガジン（第 67 号 2017/10/2 発行）

◆◆ <<https://www.iima.or.jp/>>



＼1. 理事長 渡辺博史 コラム／

教育三考

<<https://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2017/20171002watanabe.pdf>>

選挙の争点に触発されたわけではないが、ここしばらくの間に参加していた国際会議、あるいはシンポジウムで議論になっていた点から三点にしぼり、私なりに整理してみた…

＼2. 専務理事 倉内宗夫 コラム／

ケインズについて思うこと

<<https://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2017/20171002kurauchi.pdf>>

ケインズ理論は、第二次世界大戦後の経済復旧とその後の発展を支え、とりわけ米国を中心高い評価を受けた。しかし 1970 年代以降になると批判が幾度となく押し寄せ…

■ホームページ 「IIMA の目」

短編コラム「IIMA の目」を、ホームページ最上部にて毎週初更新掲載しています。是非ご覧ください。

<<https://www.iima.or.jp/research/column/index.html>>

1. 「党大会を前にした中国の政治・経済情勢の概観」梅原 直樹
2. 「過熱する仮想通貨を活用した資金調達方法（ICO）」志波 和幸
3. 「貿易政策と移民政策の深い関係」森川 央
4. 「トルコの新教育カリキュラム—エルドアン大統領のイスラム寄りの政策」潮田 玲子
5. 「注目される欧州からの訪日観光」中村 明
6. 「『有事の円買い』と『国債の希少性』」武田 紀久子
7. 「総選挙後に待ち受けるドイツの課題」麻野 文裕

■IIMA Global Market Volatility Index・購買力平価グラフの更新

<<https://www.iima.or.jp/research/ppp/index.html>>

≪掲載内容≫

○IIMA Global Market Volatility Index

（グローバルな金融・資本市場のリスク度を表す指数）

## ○購買力平価グラフ

(ドル円) (ユーロドル) (ユーロ円)

### ■今月の新着レポート

#### 1. 「ラオス経済の現状と見通し」阿南 鉄朗

[https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2017/NL2017No\\_27\\_j.pdf](https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2017/NL2017No_27_j.pdf)

ラオスは、インドシナ半島諸国のなかで、人口・経済・その他全般的に規模が一番小さい。ラオスの一つの強みは、近隣諸国のニーズが高い電力を水力により発電、輸出できることであり、このこともあり 2006 年から 7~8%の成長を成し遂げた。しかし、その副作用として対外債務が膨らみ、経常・財政赤字に陥っている。ラオスは新国家主席と首相のもと、これにどう対応するか、同国の大きな課題である。

#### 2. 「50 周年を迎えた東南アジア諸国連合 (ASEAN) ~ASEAN 経済統合の現状と課題~」山口 綾子

[https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2017/NL2017No\\_26\\_j.pdf](https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2017/NL2017No_26_j.pdf)

今年 50 周年を迎える ASEAN は、2015 年末に ASEAN 経済統合 (AEC) を発足させるなど、慎重ながらも着実に統合を進めている。ASEAN 各国は東アジア企業がアジア地域で展開するグローバル・バリュー・チェーン (GVC) に参画することで高成長を遂げてきた。ASEAN は 2025 年に向けて AEC をさらに深化させ、域内格差縮小、中所得の罫の克服などの課題に取り組んでいる。

#### 3. 「Sri Lanka Economy: Present Situation and Risk Factors

~Will Diversification of Exports be Achieved by Sophistication of the Economy?~」Akira Nakamura

[https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2017/NL2017No\\_10\\_e.pdf](https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2017/NL2017No_10_e.pdf)

「スリランカ経済の現状とリスク要因について

~産業の高度化による輸出品目の多様化は進むか~」の英語版

#### 4. 「過去 30 年の経済変化と大学生の経済環境の悪化」佐久間 浩司

[https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2017/NL2017No\\_25\\_j.pdf](https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2017/NL2017No_25_j.pdf)

社会に人材を送り出す最終仕上げ段階である大学の在り方は、国の成長戦略の根幹に位置づけられるが、よからぬ変化が起きている。大学生の経済環境の悪化である。本稿は 30 年前と現在を比較し、その間の経済変化が大学生にいかに関与しているかを論じる。

#### 5. 「UAE の現状と課題 ~ドバイ・ショックの再発リスクを中心に~」竹山 淑乃

[https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2017/NL2017No\\_24\\_j.pdf](https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2017/NL2017No_24_j.pdf)

アラブ首長国連邦 (UAE) はドバイを中心に湾岸諸国の中で最も経済発展と国際化が進んでいる。ドバイショックから約 10 年たつ現在の経済概況と今後、ドバイショック再発のリスクについて述べる

6. 「タイ経済の現状と展望 ～足下のリスク要因と「中所得の罅」克服にむけて～」山口 綾子

[https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2017/NL2017No\\_23\\_j.pdf](https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2017/NL2017No_23_j.pdf)

タイは緩やかな景気回復過程にあり、民政復帰スケジュールの遅れなど政治的リスクをかかえつつも、回復が続くとみられる。中期的には「中所得の罅」を克服するために、R&D 投資の強化、人材育成、サービス業における外資規制の緩和など、多くの課題にとり組む必要がある。

7. 「マレーシア経済の現状と展望 ～経常黒字の持続性とリスク要因について～」中村 明

[https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2017/NL2017No\\_22\\_j.pdf](https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2017/NL2017No_22_j.pdf)

マレーシアは、経済成長率が上昇に転じ貿易黒字の縮小にも歯止めがかかり、短期的なリスクは低下しているが、長期的には貿易黒字の拡大持続は困難となる可能性が大きく、経常収支の黒字を維持するためには、第一次所得収支が黒字化する必要があると考えられる。

8. 「The Mexican Economy at a Crossroad:

Direction of Renegotiation on NAFTA and Presidential Election」Hiroshi Morikawa

[https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2017/NL2017No\\_9\\_e.pdf](https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2017/NL2017No_9_e.pdf)

「メキシコ経済の光と影 ～メキシコ経済の構造的弱点を探る～」の英語版

9. 「China' s “Belt and Road Initiative” : Its Features and Future」Naoki Umehara

[https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2017/NL2017No\\_8\\_e.pdf](https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2017/NL2017No_8_e.pdf)

「中国『一帯一路』構想の特徴と今後について」の英語版

■ 今月の IIMA

IIMA 恒例の国際金融シンポジウムを来年 2 月に開催すべく、準備を始めました。今年は 5 月に、第 50 回 ADB 年次総会の横浜開催にあわせて、三菱 UFJ フィナンシャル・グループ (MUFJ) と国際金融セミナーを共催しましたが、IIMA 単独で大型シンポジウム／セミナーを開くのは約 2 年ぶりとなります。テーマはまだ検討中ですが、グローバル金融危機 (リーマン・ショック) から 10 年近く経つなかでの世界経済の変貌について、著名な専門家を世界各地から招聘したうえで議論することを考えています。世界景気がようやく安定成長軌道に至ったとみられる一方で、インフレ圧力が依然総じて弱く、市場金利もかつての好況期と比べて大幅に低いという現状について、その背景と今後の展望をディスカッションするというのが現在の一つのアイデアです。どうぞご期待ください。

【バックナンバー】 <https://www.iima.or.jp/mailmagazine.html>

【次号】2017 年 11 月 1 日配信予定

【メールマガジンの配信停止・配信先変更】 <https://m.entryform.jp/m/iima/>

【各種お問い合わせ】 [admin@iima.or.jp](mailto:admin@iima.or.jp)

※閲覧には Adobe Reader が必要です。

Adobe Reader のダウンロードはこちらから

→<http://get.adobe.com/jp/reader/>

本メールは配信専用のアドレスからお送りしております。

返信をいただいても当方では受け取ることができません。

---

◇発行◇

公益財団法人 国際通貨研究所

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2 三菱東京 UFJ 銀行日本橋別館 12 階

[HP] <https://www.iima.or.jp>

Copyright (C) IIMA All Rights Reserved.